

東椎屋の滝開きイベント

隔年開催となる東椎屋の滝開き安全祈願祭、ことしは催行の年にあたり、去る六月八日の午前10時から、是永市長、衛藤市議会議長、尾島県議、元吉県議、安心院支所長などの来賓と、地元内外からの一般の方々合わせて約200人の参加者のもと開催されました。

今回は市観光まちづくり課手配による3回目の新聞広告の効果もあり、前回よりも一層人出が多く、盛り上がりました。

主催は宇佐市観光協会 安心院支部で、当協議会は共催の立場ですが、地区最大の観光スポットのイベントであることから、六月六日の滝駐車場や遊歩道の整備作業、イベント当日の会場の整理役、参加者全員へのお接待品の配布役など、地区の交流人口を増やして活性化に繋ぐ事業として、振興、教育、女性の各部会員が積極的に参画しました。

前日の六月七日には、地元の心を伝えようと、女性部会員を中心とした13人のメンバーで、当日の全参加者へお接待品として配る「紅白餅」のもちつき（タノ、メロ組）をしました。

当日は好天に恵まれ、恒例となった津房小児童全員による合唱披露と護摩炊き神事で盛り上がり、今夏の来訪者の安全と絶えざる水の恵みを祈願する盛大なイベントとなりました。



観光協会、津房地区農地・水保全会と合同で遊歩道などの整備作業



参加者へのお接待用「紅白もち」製造中



滝開き神事の様子



可愛い津房小全児童による元気な合唱

集落の花壇に花苗頒布

花いばり事業

「津房郷を季節の花で飾ろう！」の活動として、ことしも各集落の空き地を利用した花壇向けの花苗を地区内へ頒布しました。

例年どおり、地元で育てたサルビアとマリーゴールドの二種類、合計 1600 本を、あんしん生活部会長の松久正男さんより頒布希望の13集落の区長さんにお渡しし、植栽をお願いしました。

これから迎える夏本番、各集落の空き地で満開となって、心を和ませてくれる筈です。



地区公民館前で嫁入り先を待つ花苗

しめ縄づくり教室

神社行事に欠かせない「しめ縄」を編めないひとが多いこのことで、協議会だより4月号で「しめ縄づくり教室」の開催案内と参加者募集をしました。事前の周知不足のためか応募者が大変少なく、少し寂しい教室となりました。ものの、計4人の生徒で予定どおり開講しました。

先生役をしめ縄やしめ飾りづくりの達人、森昭さん（六郎丸）にお願いし、使用するワラ材の提供と、編み方の実技を基本から指導して頂きました。

全く編めなかった生徒たち、終盤にはソコソコの縄が編めるまで上達し、あとは自宅での自習を続けられ、何とかかなりそうなるレベルまでになりました。

しらしんけん 技の体得を目指す生徒たち



津房温泉の運営管理事業のご報

津房温泉の指定管理事業7年目、平成30年度（30年4月～31年3月）の運営結果についてお知らせします。

【ご利用者数】	年間 46,802 人	（前年比 474 人の減少）
【収入の部】	施設利用料：7,240,260 円、市からの委託料その他：1,363,100 円	
	前期からの繰越金：244,059 円	合計 8,847,419 円・・・①
【支出の部】	人件費：4,153,323 円、需用費：3,586,347 円	
	その他：755,745 円	合計 8,495,415 円・・・②
【収支】	① - ② = 352,004 円の黒字	

（30年 単年度の黒字は 107,945 円）

地区の全体的高齢化と人口減少の影響のためか、ご利用者数および利用料収入とも前年実績を下回る結果で、単年度収支は辛うじて黒字という厳しい決算でした。

引き続き住民本位の運営を通じて、津房および近隣住民の健康づくりセンターの場を提供し続けること、また、まちづくり活動の自主財源として活用できる黒字運営をめざしますので、住民各位の一層のご利用をお願いします。

津房小学校食育支援

児童への食育教育の一環として学校菜園でのさつま芋づくりの支援を行いました。

耕耘を佐藤浩一氏（五郎丸）、畝づくりとマルチ掛けを小野清一氏（丸田）と津小校長、教頭の両先生に、それぞれ手伝って頂いて準備、6月11日午後、全児童参加のもと、300本の「紅はるか」の苗を植えました。

学校菜園では津小の先生方のご指導のもと、多種類の夏野菜が植えられ、児童たちが熱心に手入れをしている光景が見られ、都会の学校ではできない貴重な実学教育が為されています。

上級生のリードのもと 全校生 26 人でいも植え

